

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立

香椎

高等学校

39

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的 役割 目指すべき学校像)</p>	<p>たくましく社会を生き抜き、未来へ飛躍するグローバル人材を育成する学校 < 普通科 > 地域に根ざした歴史ある伝統校として、教科横断的な学びを通して、自ら考え、情報を収集・選択し、主体的に行動する人材を育成します。 < ファッションデザイン科 > 地域との協働による実践的なカリキュラムを通して、ファッションを軸に置き、自ら考え、伝統を生かしつつ新たなものを作り出すことができる人材、 情報を収集・選択し、主体的に行動する人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の真実を見抜き、正しく行動する力を育成 ・多様性を認め、新たな価値を生み出す力の育成 ・学びの価値を知り生涯、成長する努力を継続できる力の育成 <ファッションデザイン科> 自己の強みを活かし、世界的視野をもって挑戦する力の育成
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を向上させる加点法による学習評価 ・個別最適化を目標とした主体的学習環境の構築 ・自己効力感・有用感の醸成を目的とした生徒主体による行事の実施 <ファッションデザイン科> ファッション界のニーズに対応できる力を育む民間企業等との連携
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の価値観にとらわれず、多様な価値観を認めることができる生徒 ・寛容の心をもって人に接することのできる生徒 ・自己の新たな可能性を見出す意思を有する生徒 <ファッションデザイン科> ファッションに関心を持ち、地元を愛する生徒

学校運営計画(4月)

学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>【成果】 ・デジタル採点システムも含めICT機器の活用促進 ・コロナ禍以前の教育活動に戻すに留まらず、新たな行事の在り方を模索 ・学校外からのファッションショー依頼の増加 【課題】 ・生徒の個別指導及び学校行事と授業時間の確保に課題が残った。 ・ファッションデザイン科生徒の校外での活動が休日となることが多いため、負担軽減の策を講じる必要がある。</p>	<p>(1) 多様性を尊重し、寛容の精神と失敗を恐れず挑戦する気概を持った生徒の育成を通して、社会の真実を見抜き適切に行動する力の習得を図ります。 (2) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、新しい教育課程に基づいたバランスの取れた観点別学習評価の改善を通して、社会で必要とされる学力の定着を図ります。 (3) 本校が目指す理念のもとで新たな学校行事像を確立し、常磐祭、体育祭を中心とした学校行事を再構築するとともに、協働的な学びの充実を通して総合的な人間力の育成を図ります。 (4) 18歳成年制度を踏まえ、大人としての権利と責任の自覚を促すとともに、自立を支援する教育の充実を図り、社会の一員としての役割を担う意識と力の育成を図ります。 (5) 教職員が絶えず研鑽を積みながら、生徒一人一人に向き合う指導を充実させるとともに、効果的・系統的なキャリア教育を展開し、生徒の進路実現を図ります。 (6) 新校舎の落成を機に、地域やPTA、同窓会等と一層の連携・交流を通して、伝統を基盤とした新たな香椎高校像を確立する取組の充実を図ります。</p>	<p>(1) 生徒及び保護者等との強固な信頼関係に立脚した組織的・継続的な教育活動の展開 (2) 生徒一人一人の良さや特徴を互いに認めあい、気遣いに溢れた学校文化の醸成 (3) 自己理解や他者理解の促進を目指した、人間関係調整力の養成 (4) 必要な情報を自ら収集し適切に行動する力を身に付けるための、揭示教育の徹底 (5) 安心・安全な社会生活を送るために必要な、危機予測能力の育成 (6) 学校設定科目の充実と教科横断的視点によるカリキュラム・マネジメントの実施 (7) 教科科目の特性を踏まえた探究・表現活動の工夫とその評価の充実 (8) 1人1台端末を活かした効果的な学習環境を実現するための、授業研究・事例研究の促進 (9) 希望進路や到達度に応じた講座の改善とICT活用による個別最適な学びの充実 (10) キャリア発達を支援するための探究活動やガイダンスなど進路関係行事の体系化 (11) 自ら規律を遵守する精神の徹底と伝統的な身だしなみ及び所作・動作の習得 (12) 国や県の指針に基づき、部活動生を支援するための新たな指導体制の充実 (13) FD科における地元企業等との連携を通じた探究活動の深化及び広報の充実 (14) 生徒支援の理解及びティーチングからコーチングへの進化を促すための研修の充実</p>	<p>A</p>

様式3

		自己評価					学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等		評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの 評価	学校関係者評価委員会 からの意見	
学習指導 (教務部教務課)	新学習指導要領に沿った学習指導の充実	教科横断的視点によるカリキュラム・マネジメントを推進するとともに、生徒の実態を踏まえた授業・演習により学力の向上を図る。	授業アンケートに関して、クロムブックを用いて集計を行い、各教員それぞれが授業改善に努めることができた。	B	A	A	研修課と協力しながら、授業アンケート等を活用し、授業改善を図ることができた。しかし、教科横断的視点はまだまだできていない部分も多いので、次年度への課題としたい。	A	一人一台端末を活用し、多様化に対応した授業に御尽力いただいていると感じた。端末の管理については、使えば使うほど修理は必要となってくるので、故障を起さないために管理を強めると活用しにくくなることから、なかなか難しい問題であると感じる。生徒のために持続可能な管理体制の構築をお願いしたい。	
		研修課と協力し年間指導計画の改善に努め、指導と評価の一体化を推進する。		A						
		授業アンケートや研究授業を活用し、各教科での授業改善を図る。		A						
	1人1台端末を活用した効果的な学習指導の推進	各教科・学年・座席・情報課等と連携しながら、1人1台端末を活用した効果的な学習指導を学校全体で推進する。	生徒に対して様々なアンケートをクロムブックを活用して行うことができた。	B	B		A			クロムブックに関しては、各アンケートや総合的な探究活動において使用する頻度が多かった。生徒に関しては使用することへの抵抗はほぼないので、ICT支援員と協力しさらなる活用を進めたい。
		Googleクラスルームを活用し、授業配信や課題配信などを積極的に推進する。		A						
		ICT支援員と連携しながら、1人1台端末を活用した効果的な学習指導を推進する。		B						
観点別学習評価の精度の向上	「加点法」による評価法を継続しつつ、評価基準が適切かどうかを学期ごとに検証し、適切な評価を実施する。	授業アンケートより、生徒の声を生かし、評価に対する生徒の声を反映することができた。	A	A	A	リアテンドメントに関しては使用する教員が増え、使用方法については説明できるレベルの教員が増えてきた。活動点の算出においてはまだまだ改善の余地があるが、各教科でさらなる協議を行い、生徒の実態に沿った採点を行うよう進めたい。				
	「思考力・判断力・表現力」を向上させるためのパフォーマンス評価について各教科で引き続き実践し、評価の充実を図る。		B							
	リアテンドメントの積極的運用により採点業務の効率化を図る。また結果の分析機能の活用を推進する。		A							
庶務情報 (教務部庶務情報課)	新校舎において防災・危機管理に対する取り組み	防災教育を通して、全生徒に防災ボランティアメンバーとしての自覚をもたせ、共助に積極的に関与する考え方を浸透させる。	学校生活アンケートより、生徒の声を活かし、今後の防災・危機管理を高めることができた。	A	A	A	防災教育を実施することで生徒が共助とは何かを考えさせることができた。新校舎になり防災避難訓練を実施した。無事に避難できる想定ではあるが、若干、避難経路の見直しを必要がある。	A	・新校舎に対応した避難訓練の見直しなど、今後も継続してお願いしたい。	
		新校舎における避難経路の掲示を常時行い、有事の際に適切な判断に基づく行動選択ができるような、日常的な備えをする。		B						
		危険等発生時対処要領の早期配付を行う。		A						
	式典や教育活動の一層の充実やに関する記録や、PTA・地域との連携・交流の充実	式典等の各行事では、関係部署と連携を密にし全職員の協力の下、厳粛で礼儀正しい実施を円滑に行う。	PTAアンケートより、保護者等の声を活かし、PTA・地域との連携・交流を図ることができた。	A	A		A			式典等の各行事は、早期に計画することで他部署と調整することができた。学校要覧や校誌香綾等の作成も早期に取り掛かることができた。地域やPTA同窓会等と連絡を取り合い、連携・交流を図ることができた。今後も継続して実施していきたい。
		学校要覧や校誌香綾等の作成には早期に取り掛かり、関係各署との調整を適切に行うたうえで、内容の精選を図る。		A						
		地域やPTA同窓会等と一層の連携・交流を図る。		A						
ICT機器を利用した教育の充実・環境整備	研修課・教科・学年などと連携し、1人1台端末を活かした効果的教育活動の方法について研究・情報共有を行う。	授業アンケートより、生徒の声を生かし、評価に対する生徒の声を反映することができた。	A	A	A	1人1台端末を活かした教育活動が展開されている。クロムブックの管理のあり方を考え、修理やサポートを実施していきたい。				
	校内ネットワークや情報機器、アカウント等の確実な保守・管理を行い、トラブルには迅速に対応する。		A							
	諸業務が円滑かつ効率的に行えるよう、ICTの活用を支援する。		A							
広報 (教務部広報課)	中学生体験入学・中高交流サービス等の充実	夏・秋の体験入学に全職員が関わり、中学生や保護者に寄り添ったサービスを行う。	体験入学のアンケートでは概ね好評であった。	A	A	A	中学生体験入学の参加者が合計2500名と去年より増加し、中学生や保護者の関心が高まっている。引き続き、出前授業や1日体験などを通して本校の魅力を発信していく必要がある。	A	・JR香椎駅に最寄りの高校が広報活動を行えるスペースを確保している。2万人以上が利用する駅なので効果はあると思う。どんどん活用して欲しい。	
		中高交流サービス(出前授業・PTA等の学校訪問など)を効果的に行い、新校舎の魅力を含め学校の良さを伝える。		A						
		中学校訪問を行い、時期に応じた本校の魅力を伝える。		A						
	香椎高校の魅力を外部へ積極的に配信	学校行事や部活動の活動等のみにかかわらず、日ごろの様子なども更新を随時行う。	インスタグラムの視聴数・フォロワー数は概ね増加している。	B	B		A			今年度より行ったInstagramはおおむね好評であった。引き続き、生徒や中学生、保護者のニーズに合わせてながら内容を精選していく。
		ファッションデザイン科の魅力をInstagramなどを通して情報を随時提供する。		B						
		学校案内やポスターを中学生にとって魅力的な内容にする。		A						
生徒会との連携を図り、校外問わず興味を引く情報の提供	生徒目線で本校に求められるニーズについて知り、広報内容に反映させる。	ホームページを閲覧している中学生や保護者が増加している。	A	A	A	今年度よりホームページがリニューアルされ、情報の整理整頓ができた。引き続き、記載する情報を精選しながらタイムリーな情報を発信していく。				
	生徒会と連携し、外部だけでなく生徒も見たいような内容をホームページで更新する。		B							
	生徒会と連携し、校内の掲示板の内容の充実を図る。		A							

様式3

生徒指導 (生徒部生徒指導課)	自他を大切にす心の育成	ホームルーム活動や学校行事を通して多様な他者と協働する経験し、互いの良さや違いを認めあうことができるようにする。	学校生活アンケートの結果を見ると、多くの生徒が充実した学校生活を送ることができている	A	A	A	学校行事や部活動は、生徒の帰属意識を高め、学校生活のモチベーションや人間関係向上につながっている。協働の経験から学んだことを事後も継続させ、校内のよい雰囲気づくりに繋げる。学年や生徒支援課と連携して段階的な目標を設定し、継続的な取組を行う。	A	・普段の生徒の様子や卒業式の様子を見てみると、生徒は大変落ち着いており、誰もが安心して通える学校になっている。保護者としてはそれが一番ありがたいのではないかと。
		学校行事や部活動を通して生徒が自ら判断、選択、決定する場面を繰り返し経験させ、場に応じた立ち振舞いができるようにする。		A					
		学校生活全般において自らの行動を振り返り、再度挑戦しようとする気概を持った生徒を育成する。		B					
	主体的に行動できる生徒の育成	授業や学校行事、部活動への積極的な参加を促し、目的意識をもって取りませる。	部活動加入率は昨年度よりも向上した。生徒専門委員、実行委員会、部活動生が中心となって、諸行事を行うことができた。	A	A		生徒専門委員会、実行委員会では、生徒の発案で新しい試みにも挑戦することができた。引き続き、後進リーダーの育成、役割と責任を理解して行動できるフォローの育成を目指す。		
		生徒専門委員会や各行事の実行委員会の活動内容、役割を整理し、活動の活性化を図る。		A					
		集団の一員として自己の役割を考え、責任を果たすことにより、リーダーシップおよびフォローシップを育成する。		B					
	生徒指導体制の強化	教育目標に則り、生徒指導課を中心に全職員で指導に当たる。	学校生活アンケートやいじめアンケートの結果を見ると、生徒は校則やマナーを守り、落ち着いた学校生活を送ることができている。	A	A		授業規律やマナーについては、引き続き学校生活の全ての場面で全職員による指導を行う。連絡・報告・相談の流れを再確認し、よりスピード感をもって組織的に活動できるようにする。年間行事予定をもとに一つ先を予測した支援、指導を行う。		
		授業規律やマナーを大切に、日頃の授業やホームルームなど学校生活の全ての場面で指導を徹底する。		A					
		職員間の連絡・報告・相談を徹底し、スピード感をもって組織的に活動する。		B					
保健環境 (生徒部保健環境課)	健康管理ができる生徒の育成	全職員による健康観察や情報交換等を徹底し、統一した指導・相談の充実を図る。	学校生活アンケートや保護者アンケートの結果より、生徒部・学年との連携が十分に取れており、生徒の健康観察や情報交換等が円滑に行われていることが伺える。	A	A	心の健康に不調を抱える生徒に対しては、生徒支援課等と連携して対応する必要がある。生徒の健康に対する意識向上のために、保健委員会活動の充実を図りたい。具体的方策としては、来年度はほげんだよりを発行する機会を増やし、生徒が健康について調べる機会をより多く持たせたい。			
		保健室業務と保健室利用生徒の対応の円滑化を図るために生徒部・学年との連携を強化する。		A					
		保健委員会活動の充実を図り、生徒の健康に関する自己管理能力を高める。		B					
	主体的に学習環境の整備ができる生徒の育成	傷害医療申請などの手続きの円滑化を図る。感染症予防の徹底を図る。		A	A	監督の指示がないと自主的に環境美化に取り組みない生徒がまだまだ多く見られる。美化週間・コンクールをより効果的な取組にするために、整美委員活動を充実したものにする必要がある。今年度は生徒間の連絡・連携に関して課題点が見られたため、改善していきたい。			
		全職員で清掃指導・監督を行い、学習環境を整える。美化週間等を利用して、主体的に清掃活動に取り組ませる。	行事振り返りアンケート等によると、掃除の仕方を改善する必要がある箇所が複数あるため、次年度の課題として取り組みたい。	B			B		
		新校舎移設に伴い、掃除道具や備品の管理を一から見直し、用具や備品の補充をよりスムーズに行う。		B					
	健康教育推進事業や学校行事等での傷害、事故防止	委員会活動の充実を図り、生徒自らが環境整備について考え行動する取り組みを向上させる。		B	A	体育祭練習時の救護テントの配置を工夫する余地がある。また、救護担当の教員だけでは人員が不足しているため、体育祭見学者の対応・指導を担当するための人員確保が必要である。献血参加者が例年より少なかったため、行事予定等を確認し、開催時期を再検討したい。			
		職員研修において安全講習や熱中症等の研修を計画的に実施し、緊急時に適切な対応ができるようにする。	献血参加者が今年度は60名と昨年度よりも大幅に減ったため、次年度は開催時期の見直しや、より積極的に参加するよう献血への理解を深める取組を計画する必要がある。	A					
		体育的行事(クラスマッチ、体育祭等)では保健体育科と連携し、全職員で学校行事における傷害、事故防止に努める。		A					
生徒支援 (生徒部生徒支援課)	全職員による支援体制の確立	自主的・主体的に社会貢献活動できる生徒の育成を図り、取組を広報していくことで、地域の社会貢献度向上につなげていく。		B	A	学年会議や支援課会議で情報共有を十分に行い、生徒に寄り添った支援を行うことができた。学校行事では生徒に関わる職員が増えるため、役割分担を明確化するなど支援体制をより工夫する必要がある。			
		学年コーディネーターを中心に全職員で生徒情報を共有し、支援の充実にも努める。	学校生活アンケートやいじめアンケートの結果を迅速に関係職員や学年間で共有し、配慮や支援に役立てることができた。	A					
		保健室利用が多い生徒の対応について、学年や他分掌と連携して、報告・連絡・相談を徹底する。		B					
	教育相談機能の充実と活用	配慮の必要な生徒の対応について、学校行事など適切に情報共有し、支援の充実にも努める。		A	A	どの取組も概ね円滑に実施し、適切な支援体制を構築できた。シグマ検査の時期をさらに検討し、2学期からの不登校を減らすために1学期中に対策を講じる仕組みを作りたい。			
		特別支援コーディネーターを中心に、サポートヒントシートを活用し、支援が必要な生徒について協議する。	学校生活アンケートやいじめアンケートの結果から、生徒が適切な支援を受けて安心して学校生活を送ることができていることが分かった。	A					
		特別支援コーディネーターは、研修会に参加し、校内の特別支援教育の支援体制を構築する。		A					
	外部関係機関・保護者との連携	シグマ検査(1年)、SOSの出し方教育(全学年)の企画・運営・実施を円滑に行う。		A	A	特にスクールカウンセラーとの連携を効果的に行うことができた。中学校との情報共有をより密にし、早期に支援につなげられるようにしたい。			
		スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどの外部関係機関と連携し、生徒・保護者への適切な対応を行う。	学校生活アンケートやいじめアンケートの結果を見ると、生徒が安心して学校生活を送ることができた。外部との連携や適切な情報共有ができていた。	A					
		各種アンケートを円滑に実施する。(一部、クローズドブックでアンケートを実施)		A					
	中学校からの情報を共有し、配慮事項を確認し、早期に対応する。		B						

様式3

進路指導 (進路部進路指導課)	発展的な内容の学習機会のための講座・課外の実施	長期休業期間に全学年で講座を実施し発展的な学習内容に触れる機会を設けることで生徒の学習に対する考え方を構築する。 3年次に希望制放課後課外を実施し、生徒の大学入試に向けての実力を養成することで希望進路実現の確かな土台を作る。 生徒の希望進路に応じて看護や公務員、就職のガイダンスを実施することで早期からの意識付けを図り、対策を講じる。	1、2年の長期休業中講座の受講率が夏から冬で減少したが、参加生徒にとって進学への早期意識付けの契機となった。	B A A	A		・各学年の希望制講座の受講理由や受講後の満足度を調査することで、各学年の希望制講座がより良いものとなるようにする。 ・時刻変更に伴い、放課後課外のコマ数等、実施形態を再構築する。	A	・多様化にも対応し、のびのびとしているところが普通高校の良さである。しかし、最低限卒業までに身に付けたい力を明確に示していく必要がある。そが甘いとい外に発信できず、台頭する私学に勝てないと感じる。
	生徒の主体的な学習を促進するためのICT教材活用の促進	到達度テスト実施後の運動課題配信を徹底し、生徒の弱点克服に向けての分析および対策を実施する。 長期休業期間の課題配信を活性化し、休業を活用して生徒が主体的に学習に向かうことのできる意識の醸成を図る。 3年次の大学入試対策において、生徒自身のニーズに合わせた課題配信を行うことにより個別の学力向上の一助とする。	到達度テストでの志望校登録状況は約74%であった。	B B A	B	A	・スタディサプリの課題配信の実践例を進路課として提案し、より効果的な使用について模索する。 ・生徒の活用状況を教員・生徒が定期的に確認できるような資料作りや到達度テストの分析を行う必要がある。		
	希望進路実現のための模擬試験の有効活用	生徒が全国規模での自身の学力を知る機会とし、自身の学習状況を振り返る契機とする。 発展的な学習内容に触れることで、生徒の学習の習熟度の向上を図るとともに、学習への意識の醸成を図る。 模擬試験の結果をもとに分析会を実施し、今後の教科指導や受験指導を体系的に行うための指針とする。	1年11月模試でマナビジョンを活用して志望校登録をしている生徒の割合が約81%となった。	A A A	A	A	1年次からのマナビジョンを活用し志望校登録をさせたり、難関大を志望する生徒を学年全体で把握し指導したりすることで、より高みを目指す生徒を増やすような手立てを学年進路を中心に行う。		
キャリア支援 (進路部キャリア支援課)	キャリア発達を支援するための探究活動の展開	1年次は、興味のある社会問題について企業での研修等を通して考えさせ、社会課題と自己の生き方について探究させる。 2年次は、社会課題解決に関する調べ学習を行い、自己の在り方生き方について探究させる。 3年次は、今まで取り組んだ内容を基に自己の在り方生き方について、志望理由書や面接等を通して表現させる。	生徒の探究活動評価表によると、約70パーセントの生徒が、目標を達成できている。	A B A	A		学年別に見ると、1・3年の生徒の達成率は高いが、2年は他学年ほどはない。原因は修学旅行の準備に時間を割き、社会課題解決に関する調べ学習が少なくなったためである。次年度は、課題探究と校外学習のバランスをより良くしたい。	A	・本校の特色をさらに打ち出していくためには、国公立進学者の数値目標を明確にする必要があるのではないかと感じる。結果を出すためには上位層をどう伸ばしていくかが鍵となる。特進クラスなど大いに伸ばしてほしい。
	特進クラスの充実	特別課外、夏期・冬期学習会、少人数授業等を通して、国公立大学入試に対応する力を養う。 特進「志」合宿を通して、志を立て実現するまで3年間仲間と努力を続ける集団作りを行う。 各学年の特進クラスに学習会等で協働させることにより縦の繋がりを深めさせ、総合的な人間力の育成を図る。	特進行事の振り返りアンケートによると、特別課外・夏冬学習会・少人数授業は6割の生徒が、効果を実感していた。	A A B	A	A	放課後課外等の特別課外に対する生徒の要望は始まる時間を早くしてほしいということと演習ではなくグループ学習を取り入れてほしいというものである。少人数授業に關しての課題は教室移動の負担である。移動先が近くなるように全職員の協力をお願いしたい。		
	校内・校外職員研修の充実・発展	教務課や各教科、他機関と連携し、3観点を踏まえた効果的な授業実践に関する研究を推進する。 学校の教育目標や課題に対応した職員研修を計画・実施する。 授業アンケートや研究紀要等、個人ならびに協働で研鑽を積むことができる取り組みを通して研修の促進を図る。	授業アンケートの結果、91.6%の生徒が予習・復習や授業中の様々な活動に真剣に取り組んでいる。	A B B	B	A	授業アンケートは、項目を生徒の振り返りにして活用しやすい内容に変更したが、返却が遅くなること、教科内での共有ができないという課題があり改善が必要である。職員研修の時期と内容については、年度初めに明確にし目的を共有することが必要である。		
研修	人権教育の充実・発展	他分掌や学年と連携し、全ての教育活動における人権教育を推進する。 生徒の実情に応じた人権特設授業づくりと展開の工夫を行う。 人権教育に関する全職員向け研修会を充実させる。	人権学習のアンケートの結果、講演会や授業について真剣に取り組むことができている。	A A A	A	A	各学年で昨年度の反省を活かして指導案を練り、充実した内容で実施できた。使用教材の更新や講演会の内容については適宜変更しながら本校の人権教育をさらに効果的なものにしていく必要がある。	A	・多様化する人権感覚に対応するため、先生方が努力されていると感じた。 ・新校舎の図書館は、明るいレイアウトで、生徒の活字離れを防ぐ工夫もみられた。
	図書・芸術教育の充実・発展	読解力向上に向けた図書館利用の推進に関する取り組みを工夫する。 百人一首かるた大会を生徒を主体として組織的に運営し、伝統文化に親しみ尊重する姿勢を養う。 芸術鑑賞(文化的活動)の事前・事後指導を充実させる。	・11月までの図書貸出数はR5年2,086冊→R6年2,070冊。 ・芸術鑑賞会アンケートより、演劇鑑賞は大変有意義だった。	A B A	A	A	新図書館の正式開館は9月という中で昨年度同様の貸出数があり、図書館の利用者が増加している。教科や分掌との連携した取組も効果的だった。芸術鑑賞会は地域の施設活用や演劇鑑賞の内容はよかったが、午前午後の二公演は授業変更や移動の面で課題があった。		
	基本的な生活習慣の確立と自主性の育成	香椎高校生徒のよき伝統である、活発さ・素直さ・何事にも真摯に取り組む姿勢を、全ての教育活動を通じて習得させ継承させる。 元気で爽やかな挨拶・礼儀正しい言動・献身的な清掃活動等、当たり前だが当たり前にしっかりとできる生徒を育てる。 生徒手帳等を活用し、必要な情報を自ら収集する習慣を身に付けさせる。	学校生活アンケートの結果、9割の生徒が、学校生活が順調に軌道に乗れていると考えられる。	A A B	A	A	元気で爽やかな挨拶など、香椎高校の生徒としての基本的な生活態度は養われてきていると思われる。学校生活に違和感を感じている約1割の生徒へのケアに注力したい。また、清掃活動への取組や、能動的に情報を収集する態度などは、より一層の成長を期すべく、指導していく。		
第1学年	他者と協働し主体的に行動できる生徒の育成	授業・学校行事などに積極的に参加することで、基礎学力を育成し、話し合いを通じて合意形成ができる態度を養う。 部活動や学校行事などの諸活動への積極的な参加を促し、失敗を恐れず挑戦する気概をもった生徒を育成する。 他者と協働する経験を積み重ねることによって、多様性を尊重し寛容の精神を持った生徒を育成する。	学校生活アンケートの結果、9割の生徒が、課外活動などに楽しく取り組んでいると考えられる。	A A A	A	A	部活動や学校行事への関わり方は、積極的な姿勢で臨んでいる。今後は、さらに様々な役割を与えつつ、主体性を育てていきたい。いろいろな活動を通じて、多様性を尊重できる態度も育ってきているが、すべての生徒が違いを認め合えるように指導していきたい。	A	・義務教育段階で主体性、人間関係調整能力等を身に付けていない生徒たちが多く入学してくるので、それらの力を育成することが重要となってくる。今後その取組をお願いしたい。
	社会で活躍し貢献できる人材としての素地の涵養	予習・復習をして授業に臨むことを早期に習慣づけ、基礎学力育成を図る。 二者面談を数回実施し、納得感のある文理選択をめざす。進路情報を自ら収集する態度、選択に責任をもつ態度を育てる。 一人一台端末を活かした探究活動を通じて、自らの興味関心に気づき、表現力・プレゼンテーション能力の向上を図る。	授業アンケートの結果、予習・復習や授業中の様々な活動には真剣に取り組んでいると思われる。	A A B	A	A	担任の先生方をを中心に、繰り返し面談をしていただいたりオープンキャンパスへの参加を勧めていただいたりして、将来を見ずえた文理選択ができた。今後は学部学科や学校選択に向けたさらなる研究が必要。一人一台端末の有効な活用は、進半ば。		

様式3

第2学年	自主的・主体的に粘り強く物事に取り組み、挑戦することができる生徒の育成	授業規律・校則を守り、積極的な姿勢で学校生活に臨む態度を育成する。 予習・授業・復習と自主学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能が習得できるように指導する。 協動的な活動の場を設定し、知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力の向上を図る。	授業アンケートの結果、予習・復習、様々な活動では、クラス、担当教員によって多少の差はあるものの良い取り組みができています。	B A A	A	A	学年団の先生方の御協力により、昨年度から行っているK-1コンテストを今年度も実施するなど、生徒たちに自主的に学習させる習慣を身に付けさせた。次年度は、主体的に学習に取り組めるように働きかけていきたい。	A	・主体性を身に付けさせるためには、様々な学校行事が重要となってくる。修学旅行で生徒が主体的にプランを決めているという仕組みは素晴らしい。
	状況に応じた立ち居振る舞いができる生徒の育成	学校行事へ主体的に参加することで、自己理解・他者理解を深め、向上心を持って物事に取り組む態度を醸成する。 先輩・後輩との関係性を築き、中堅学年としての役割を果たすことができるよう指導する。 各自が自己の役割を把握し、集団の一員としての責任を果たすことができるよう指導する。	振り返りアンケートの結果、次年度の行事で実行委員やブロック役員に取り組んでみたいと考えている生徒が複数見られた。	A A A	A				
	自主的・主体的に情報収集を行い、進路目標を明確化し、学習に取り組むことができる生徒の育成	自ら情報を収集し、積極的に資格取得に挑戦させるとともに早期に進路目標を設定できるよう指導する。 定期考査・校外模擬試験の復習などを通して、各教科の基礎・基本を身に付けさせるよう指導する。 総合的な探究の時間や修学旅行を通して、自己の進路について、考えを深めることができるよう指導する。	進路希望調査の結果 国立公立大学への進学を希望している生徒は、約45パーセントである。	A A A	A				
第3学年	主体的に学ぶ生徒の育成	授業を中心とした予習、授業、復習のサイクルを確立し継続的に行えるように指導する。 ICT機器を活かして効果的な学習ができるように支援する。 校内で自学・自習ができるように学習環境を整備する。	授業アンケートの結果から3学年となり意識の高まりとともに学習習慣ができていたことが分かる。	A A A	A	A	3学年となり、1、2学年の時よりも授業に臨む姿勢がより積極的になった。学習習慣も身につけ、多くの生徒が最終下校まで居残りしたり、休日も学校を利用して。生徒のニーズに応える学校側の体制づくりが課題である。	A	・生徒の学習環境を確保することと教員の働き方改革の矛盾を解決するために、様々な工夫を行っていると同だったが、引き続き検討をお願いしたい。
	あらゆる社会で評価される人材の育成	学校行事や部活動を通して、最上級生としての役割を果たすことができるように支援する。 学校生活全般を通して、状況に応じた礼儀やマナー、適切な立ち振る舞いを社会人として通用できるように指導する。 様々な活動において個性を尊重し、他者と協働する力を身につけることができるようにする。	学校生活アンケートから、道徳心や倫理観などが養われ、公共心をもつことができるようになったことが分かる。	A A A	A				
	進路実現に向けて、果敢に挑戦する姿勢の育成	学年全体で進路に関する情報共有を図り、共通認識を持って生徒及び保護者に対して適切な進路指導を実施する。 進路に応じた放課後課外やスタディサプリ等を活用し、生徒の希望進路とその実態に合った進路指導を実施する。 総合的な探究の時間を活用し具体的に進路実現に向けて深く考えるように支援する。	進路希望調査や3者面談の報告から、生徒は主体的に考え、保護者とも話し合いながら進路への意識を高めたことが分かる。	A A A	A				
ファッションデザイン科	学習指導の改善と学びの高度化	「ファッションビジネス」の学習内容を充実させるとともに、科目横断的視点によるカリキュラム・マネジメントを実践する。 一人一台端末を含めたICT機器を活用し、学習指導法の改善を行う。 研修会への参加や産業界との交流による教員の指導力向上を図るとともに、高度な知識や技術を身に付けさせる。	タブレットの活用で生徒の弱点を把握でき、各種検定合格率は90%前後である。一方、授業アンケートよりICT機器の活用について評価の低い科目がある。	B A B	B	A	タブレットについては、他教科の実践例も参考に効果的な活用方法を検討する。来年度より「ファッションビジネス」などの専門科目が減単のため、指導内容の精選を図る。	A	・ファッションデザイン科の取組は文化祭でも知る事ができた。もっと地域にアピールしていいと良い。しかし、土日や休業中に多く出ていく事から、指導される先生方の負担軽減も働き方改革の視点から考えていく必要があるであろう。
	キャリア教育の充実による高い志の生徒の育成	地元企業等と連携し探究活動を充実させるとともに、実践的・体験的な学習を通して、高い志を醸成する。 資格取得等の学習活動を通して、専門的職業人としての高度な資質を身に付けた人材を育成する。 学校行事など協動的な学びを通して、自己有用感を育てる。	生徒の感想文などから、行事を通して達成感や自己有用感を読み取ることができる。	B A A	A				
	広報活動の充実	様々なツールを活用して情報発信を行うことで、本校の教育活動を多くの方に知っていただく。 体験入学、小高連携事業、校外でのファッションショー、インスタグラム等生徒による情報発信のさらなる充実を図る。 中学生やその保護者へのきめ細やかな広報活動を行い、志願倍率を上げる。	前年比、体験入学参加中学生約30名増 インスタフォロワー数約150名増であった。	A A B	A				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・国立公立大学進学に特化した特進クラスの充実のため、新しく特進課を設置する。 ・ICTを活用した情報発信や、地域と連携した広報活動を一層進める。 ・一人一台端末の管理体制の見直しを図り、より充実した個別最適な学習を支援する。 ・ファッションデザイン科の取組を地域に発信し広報活動をさらに充実させるとともに、進路先の開拓を行う。
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
・体育館に空調設備の必要性	